

徳島県環境審議会生活環境部会 会議録

1 日 時

令和7年11月14日（金） 午後1時30分から午後3時20分まで

2 場 所

徳島県庁 10階 大会議室

3 出席者

＜委員＞ 委員17名中13名が出席

（1号委員：学識経験者、五十音順、敬称略）

岩下佳代委員、大地幸代委員、岡部千鶴委員、奥嶋政嗣委員（部会長）、
岸史郎委員、上月康則委員、斎藤恵委員、島田公委員、住友美佐子委員、
谷口美德委員、原彩乃委員、板東美千代委員

（2号委員：市町村長又はその指名する職員、敬称略）

角谷由佳委員

4 会議次第

- （1）開会
- （2）挨拶
- （3）委員紹介
- （4）審議（第6期徳島県廃棄物処理計画について）
- （5）質疑応答・意見交換
- （6）閉会

《配付資料》

会議次第

出席者名簿

配席表

資料1 第6期徳島県廃棄物処理計画（素案）について

資料2 第6期徳島県廃棄物処理計画（素案）【概要版】

資料3 第6期徳島県廃棄物処理計画（素案）

参考資料1 徳島県環境審議会設置条例

参考資料2 徳島県環境審議会運営規程

参考資料3 徳島県環境審議会生活環境部会名簿

参考資料4 諮問文

参考資料5 付議文

5 審議

■議事概要

【事務局】

定刻が参りましたので、ただ今から、徳島県環境審議会生活環境部会を開催いたします。

本日の出席委員は12名であり、当部会の委員数17名の過半数の方に御出席いただいておりますので、徳島県環境審議会運営規程第7条第3項の規定により、この会が有効に成立しておりますことを御報告申し上げます。

なお、本日の審議は公開となっております。

また、徳島県環境審議会運営規程第9条により、会議録の作成が義務づけられており、当部会の議事も録音させていただきます。

【事務局】

それでは、審議に移ります。

本日の案件につきましては、知事から環境審議会会長に、諮問されております。

また、徳島県環境審議会運営規程第6条第1項により、環境審議会会長から当部会に付議されております。

なお、当部会の議事進行につきましては、徳島県環境審議会運営規定第3条及び第7条第2項の規定に基づき、部会長が行うこととなっておりますので、奥嶋部会長に議長をお願いし、議事を進行していただきます。

【部会長】

部会長の奥嶋でございます。これからの議事の進行に当たりまして、委員の皆様方には当審議に対する御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから審議に入りたいと思います。

「第6期徳島県廃棄物処理計画（素案）」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（説明）

【部会長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様より、ご質問、ご意見をお伺いしたいと思います。

なお、本日は、「第6期徳島県廃棄物処理計画」の策定に関しまして、初めての会議でございますので、ご出席の委員皆様方全員より、ご意見等いただければと思います。

【岸委員】

リサイクル率が16.6%から15.8%に下がっていますが、良くないことと考えており、県としての見解をお聞きしたいです。

また、産業廃棄物の徳島県の協会では、太陽光パネルやプラスチックのリサイクルの工

場を整備していますが、まだ余裕があるので、プラスチック等でリサイクルする物があれば、こちらでリサイクルを進めていただければと思います。

【事務局】

リサイクル率の引き上げについて、排出抑制に向けた県民・事業者の皆様への啓発、資源循環の推進に向けた取組を進めます。国、市町村とも連携しながら目標達成に向け努めます。

【部会長】

どういった部分でリサイクルが低いのか分かれば、取り組みやすいと思うので、今集めているデータの分析をお願いします。

続きまして、上月委員、いかがでしょうか。

【上月委員】

徳島県のごみの量が多いことについて、原因、解析がされていません。

県は県内全体を解析、評価を行い、施策を提示するべきですが、それができておらず、残念に思いました。

それから、1人当たりのごみの処理経費が、全国に比べて6,000円も高いですが、どうすれば経費を下げられるのか、積極的に書いて、啓発していくことが重要だと思います。

また、災害廃棄物について、単に減らすと言うだけではなく、具体的に計画を立てて、どのように減らしていくかを示していただきたい。市町村だけでは災害廃棄物の処理が難しい面もありますので、県若しくは国の力を借りながら、どのように進めていくのか、具体論をお願いします。

【事務局】

ごみの量が多いことについては、例えば、再使用可能な製品の積極使用等、そういったところの普及啓発がいき届いていない部分もあるかと認識しているところです。

処理経費の問題について、県内の市町村の廃棄物焼却施設等も、老朽化が進む中で、維持管理費がかかっていると考えています。また、リサイクル率が低いことも、ごみ処理経費が上がる一因であると考えます。

災害廃棄物に関しては、別途「災害廃棄物処理計画」を策定しています。委員のお話のとおり、単独の市町村では、大規模災害時には、災害廃棄物を処理しきるのは困難だと認識しており、場合によって他県、国にも応援を求める必要があると考えております。先般も、環境省主催の災害廃棄物の県域をまたぐ訓練に、当課職員が参加してきたところですが、こうした機会を通じてノウハウの蓄積を図りたいと考えます。

いただいたご意見に対して、どういった形で今後施策に活かすか、計画に盛り込んで行くかについて、研究検討させていただきます。

【上月委員】

ごみの量や、処理経費の話は、解析が全然できていないという認識でやっていただきたいと思います。啓発の話もいいのですが、全国よりも処理経費が高いこと等は、何か徳島

県にも特色があると思うので、全国とどこが違うのか、そこを比較してほしいと思います。

【部会長】

私もその点は一番気になっていて、県民1人当たりの処分費用が全国の1.5倍になっているので、しっかりごみ処理施設を造る方が、安価に処理できる可能性が見えそうな気がしています。県が協力して、県全体の処理費用、処分費用を下げる必要性が見えるくらいの開き具合だと感じました。

それでは、岡部委員、お願いします。

【岡部委員】

今回の処理計画に、大きく「とくしまプラスチックスマートプログラム」を掲載されており、徳島県の課題はプラスチックなのかと考え、会に臨みましたが、総花的で、徳島としてこういった形でプラスチックゴミを減らしたいという、徳島らしさが読み取れないと思っております。1項目を設け、とくしまプラスチックスマートプログラムとして提起するなら、このあたりもう少し踏み込んで書く必要があると感じました。

また、リサイクル率の設定について、現計画から下げる訳にはいかず同じく30%ということですが、実効性はあるのでしょうか。高めの設定も意味があるのかもしれませんが、国と同じレベルに見直してもいいのでは、と思います。

【事務局】

プラスチックの問題に関しては、近年、国においてもプラスチックのリサイクルに係る法律が新たに制定される等、重要性を増していると考え、本県も同様の認識です。

総花的であるとのこと指摘をいただきましたが、計画をこういった形で対応できるのか、検討させていただきます。

また、リサイクル率は国と同じ26%でいいのではというご意見につきまして、30%は高い目標であると十分認識はしていますが、基本施策に基づき取組を進め、30%を達成できるよう努力していきたいと考えています。

【岡部委員】

30%の理想はいいと思いますが、計画を出す際は、年間何%ずつ進捗するなど、道筋が必要だと思います。先に数字だけが出されて道筋が見えないと、本当にこの数字で大丈夫なのかと感じてしまいます。

【部会長】

具体化できる計画にしないと難しいと思われるので、検討をお願いします。

続いて、岸委員、先ほどもご発言いただきましたが、何かありますか？

【岸委員】

1点、上月委員もお話の災害廃棄物の処理に関して、エコサポート事業についてです。

県と一緒にゴミを拾い、拾ったゴミを災害廃棄物に見立てて分別しますが、市町村によってカテゴリーが異なるので、日頃から災害時にはこういったごみが出る、こういう風にリサイクルするといった事業を毎年実施し、今年は12月に川島で予定しています。

また、広域連携につきまして、四国内の協会とは3年前、協定を締結していますが、来年春、中国地域の協会と四国の協会で、災害時に助け合うための協定を締結します。

【部会長】

続いて、板東委員、お願いします。

【板東委員】

新町川で川清掃に取り組んでいますが、昔と比べてゴミの量は大きく減っています。今一番目に付くゴミは、ペットボトルやプラスチックで、ビニール袋3袋程度集まります。市民のモラルは確実に上がり、皆様方がその気持ちは確かに持っていますが、数字を見るとそんなに進んでいない現状で、驚きました。先日、県の方が事前説明に来てくれましたが、その際にプラスチックは種類が多く、リサイクル、分別も難しいというお話を聞きました。ここに何か意見を言わせていただくのはなかなか難しいですが、そのような知らないことを知ることで少しでも勉強できるかなと思っています。

【部会長】

ありがとうございます。

続いて、大地委員、お願いします。

【大地委員】

海岸漂着物について、特に量が減っている印象はなく、これはポイ捨てだけでなく、漁業者から排出されるゴミもあります。漁から出るごみが、産業廃棄物に当たるという認識がない方もいて、一般廃棄物と産業廃棄物の区分ができていないという疑問は、漁業組合に勤めている傍らで色々と思い、産業廃棄物になるものを、もっと広く広告・周知することも大切であると感じています。港湾からのごみも、たくさんの漁の網、ブイ等が放置されたままの状態になっているものが、どこの港にもあると思うので、そちらの廃棄等を推進し、きれいな川、海を目指していただきたいと思います。

【部会長】

続いて、住友委員、お願いします。

【住友委員】

農家で、野焼きが問題になっていることについて、農業から出るごみは非常に多量であるため、市町村のごみに出すのは難しいためなのですが、県か県警かが、ヘリコプターを飛ばして野焼きの監視をしています。煙の色で何を燃やしているかがわかり、木とか作物のくずだと白い煙、ビニール等だと黒い煙になるそうです。

また、農協では市町村とタイアップして、「廃プラスチック適正処理対策協議会」を設置し、農業用プラスチック等を回収しています。

この他に、女性協ではペットボトルの蓋を回収し、発展途上国の子供のワクチン代金にして、送っていますが、ただ集めるだけではなく、こういった取組もしていただけたらいいかなと思っています。

【部会長】

続いて、斎藤委員、お願いします。

【斎藤委員】

これからお歳暮シーズンにもなりますが、まずは過剰包装を無くすことです。また、小型家電についても、正しく廃棄されていないこともあります。小中学生も、社会科のリサイクルの授業でのゴミ処理場見学等、よく勉強されているので、子供たちを通じて、PTA活動等で勉強会を行い、取り上げていただくと浸透にも繋がると思います。

また、医師会でも、医療廃棄物の廃棄については研修がある一方で、一般のリサイクル等はなかなかなじみがないですが、以前、水銀の体温計、血圧計を医師会で回収する等、環境保健委員会として活動を行ったこともあります。

大きな病院をたくさん抱えている先生もいらっしゃる、プラスチックゴミも問題になっていると思うので、医師会委員にも問題を広げていきたいと思っています。

【部会長】

ありがとうございます。

続いて、岩下委員、お願いします。

【岩下委員】

薬剤師会において、住友委員も触れられたペットボトルのキャップ回収は行っていますが、団体としての活動はそれくらいだと思います。

先ほど、岸委員も言われたように、地域でごみの分類が異なり、板野町では燃えるゴミでそのまま捨てられても、徳島市では分別が必要なことがあります。ただ、徳島市に住んでいる人に聞いたら、実際は分別していないといった答えが返ってきたことがあります。結局、5人いれば1人は何も言わなくても分別する人、1人は何をしても分別しない人、残り3人はどちらにもなり得る人で、この3人の人たちが適正にごみを捨てるように、先ほどの啓発が必要だと思います。何ごみか分からない、どう捨てればいいのかとなった場合、どこまで調べるかなのですが、まあこれでいいや、となる場合も結構あると思いますので、徳島県で、市町村毎に処理方法を案内するHP等を設置できたら、適正処理に繋がると考えます。

また、他の人と災害廃棄物削減の話をした際、電信柱の地中化も有効だという案が出ました。日本では遅れているが、地中化により災害廃棄物も減るという話でした。

それから、空き家問題について、行政代執行がされると所有者などが費用負担することになるが、その前、倒れる前の状態の空き家においては、小型家電等、色々と使えるものがあると思います。その段階で、県が関与することで何とかできないかと。費用が請求されるよりは、空き家に残ったものからキャッシュバック等が得られればいいのかというように考えています。

【部会長】

岩下委員から、普及啓発の話が出ました。エコみらいとくしまでも普及啓発が長年進められ、ネットで配信もされていますが、ものを売れるくらいの発信力がないと、皆が乗ってこない問題もある中で、どれだけ費用を掛けられるか等、簡単ではないとも思います。県も関わっていただいているところなので、ご検討をお願いします。

続いて島田委員、お願いします。

【島田委員】

私は、消費者団体連絡会から来ていて、環境省の環境カウンセラー、徳島県の地球温暖化推進委員会に所属している他、本業は建築家ですが、自分で環境NPOも設立しており、不法投棄や野焼き、海岸漂着物対策の充実に取り組んでいます。特に、海岸漂着物の対策について、今年、鳴門の亀浦漁港海岸で流木を使ったゴジラが全国的に有名になりました。

年1回、9月に亀浦漁港海岸で清掃活動を実施すると、7t車一杯分のゴミが出ますが、公的な費用が出ないため、自分たちで中央から予算を取り、人を集め処理をしています。他県に聞いたところでは、高知県、香川県、愛媛県とも支援の予算ありますが、徳島県だけなし。徳島県の環境NPOが尻すぼみになるのは、やはり予算がないためです。

15年ほど前に、徳島県内の瀬戸内海に関係する全ての海岸の調査を行ったが、鳴門の海岸が最も汚いという結果でした。香川県の方と話をすると、徳島県は瀬戸内海から外されているということで、それなら自分たちで独自にやろうと、鳴門市とも話をし、瀬戸内海のごみを流木アート等、芸術的な活用について、対策の1つに考えています。

それから、不法投棄や野焼きについて、先ほどもヘリコプターによる監視の話がありましたが、ごみを海岸で燃やす人はよく知っていて、朝方の雨が降る前に火を付けます。そうすると煙が上がらず、ヘリコプターも飛んできません。燃やすものもウキとか発泡スチロール、さらには解体から出た木材が焼かれることもあります。それを私たちが処理をしています。NPOやボランティアは無償で活動しており、費用が発生すれば持ち出しになってしまうので、処理や運搬の費用をどこかから工面しながら活動しています。

また、環境カウンセラーとして、以前より、県民活動プラザ、省エネルギー庁、エコみらい等、出前授業に行き、エネルギーやリサイクル、3Rについて話をしています。私たちの団体では、風呂敷を活用したレジ袋の普及活動を14～15年程度行っており、やっと定着してきたところです。

その他、ごみ処理の方法が分かっていない団体さんもあるので、管理者との話の上で進めていくこと等、そういったところから共通意識を持ってもらえるよう、研修会を行い、それぞれの海岸で活動いただくことがいいと思います。

活動について、色々な形で声がけを続けますが、参加者は県外や県南の方が多いです。興味を持っている方もいますが、地元の方が少なく、尻すぼみであり、これをどういう風に繋げていくか、頭を抱えて動いています。

【事務局】

海岸の清掃活動についてご尽力いただきありがとうございます。

今年度初めての取り組みですが、NPOや個人の方が海岸清掃等のイベントを実施する際

に、いくらかの支援を行う制度を構築し、県HPでも案内しています。

また、四国他県において助成制度があるということですので、こういった支援制度があるか研究して、今後徳島県としてこういった取組ができるのか、研究・検討をさせていただきたいと思います。

【島田委員】

もう1点、SDGsでいうと、今年2025年が海ゴミの最終年度になっていたかと思いますが、これで終わりではなく、ごみは増える一方なので、現地も見ていただきながら、何か検討策を考えていけたらいいと思います。

【部会長】

続きまして、谷口委員、お願いします。

【谷口委員】

我々、建設業においては、公共工事、民間工事にかかわらず、調査に始まり、計画、実行、報告まできっちり行い、残材の処理の報告まで行っているのですが、ごまかしている業者はないと考えています。無許可で廃材を自分の山に捨てる業者があれば別の話ですが、普通に工事を行っているところは、大変な罰則を抱えており、しっかりやっています。

ただ、海岸漂着物の処理等では苦労しています。海岸漂着物は一般廃棄物になり、産業廃棄物だと都道府県単位で県の中で処理する考え方ですが、一般廃棄物は各市町村内で処理することになります。我々建設業者も、市町村等と契約締結した元請けなら、許可が無くても運搬できますが、緊急に海岸を掃除した場合等は運搬ができません。海部郡内には一般廃棄物の処理業者がなく、処理する場合は阿南まで運搬が必要ですが、自分では運搬できないので、集めておき、阿南から業者を呼ぶことになります。一度、私も単独で、阿南までの一般廃棄物の運搬業許可を取ろうとしたが、許可が得られたのは地元の海陽町のみでした。海陽町以外のところは、一般廃棄物を持ち込むなという考え方で、許可は得られませんでした。廃棄物処理業者なら、そこへ運ぶという名目があり、他町でも運搬許可を得られますが。我々、建設業者だと難しく、結果として、緊急の動きができないということも起こります。

また、ボランティアについては、県も推奨されており、我々の業界も協力していますが、ある者がテレビを拾って町の処理場に持っていったところ、処理費を求められました。結局支払いましたが、ボランティアで協力してきれいにした上に、お金の支払いまでする事実もありますが、ボランティアということで何とかしていただければ、もっと気持ちよく活動できると思います。今後は、多分テレビを拾わなくなると思います。

【事務局】

法律の規定の中で、いかに円滑に対応できるか、県も市町村としっかり連携して対応して参ります。

【谷口委員】

産業廃棄物の運搬に関しては、私たちは県境なので、高知県でも簡単に許可が得られましたが、一般廃棄物は、他の町ではなかなか許可されません。

【事務局】

一般廃棄物の許可は経済性と言うより、市町村がその区域内で一般廃棄物を適正処理するに当たって、どれくらい許可が必要であるかで判断していくようになります。

【谷口委員】

一般廃棄物に至っては、各事業体が処理業者と処理をする事業体に、許可をもらえば運搬ができたはずで、事業体、徳島市が、鳴門市に許可をもらえれば、徳島から鳴門まで運搬もできたかと思っています。そういった、柔軟な考え方をしていただければ、我々も運搬ができると考えています。

【事務局】

それぞれの自治体の判断があると思われ、市町村行政の自治事務に関しては、県がこうすべきといったことは、申し上げにくい部分もありますが、そういった現状があるということに関しては、市町村とも共有したいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

続きまして、原委員、お願いします。

【原委員】

エコみらいとくしまで、学生の環境推進員の代表として活動させていただいており、今日は学生視点で意見を述べさせていただきます。

まず、1人1日あたりのごみ排出量が、911g/人・日ですが、これは意識してごみを減らそうと努力する人、意識せず多く捨ててしまう人の平均値なので、もう少し足並みを揃えることから始める必要があると考えます。また、大学で家庭科を専攻していて、衣服・食品の廃棄の面から考えることが多いですが、大学入学後、リサイクルやリユースについても学びを深める中で、この計画でも重視されている「リサイクル率の向上」より、リユースの方が身近で実践しやすい、と考えています。同じごみを減らす目的であれば、リサイクルは労力、時間、お金が必要となりますが、リユースならそのまま新しく使う状態になり、コストもかからずコスパもいいと思います。

それから、衣類、雑貨を無料で引き取り、必要な方にお渡しする「いろどり屋」を毎月、エコみらいとくしまで開催しています。この目的は、リユースの良さを伝えて、ごみを減らすことも楽しめることを知ってもらうことですが、現在は学生が一生懸命集めてきた服を、大人たちが金目になるものを取っていき古着屋で売られることもあるのが現状で、理想どおりの発信、啓発活動ができていません。

また、衣服のリサイクルに関して、服のタグに素材が記載され、単一素材（綿100%、ポリエステル100%）ならリサイクルできますが、何かの素材が混ざるとリサイクルできずに、お店等の回収ボックスに衣服を入れても埋立て、焼却等により処分されることが現状で、またリユースに回しても、一部業者により海外に不法投棄され、ごみ山が増えることもあります。

リサイクルについて、教育実習などで教える中で、リサイクルはいいことだとはわかっているものの、リサイクルされた物がその後どうなっているか全然分からず、余り興味がそそられないと話を聞くことがありました。実際に興味を持ってもらえるように、私はリサイクル後の物を持ち出したところ、こんな風に素敵な物に生まれ変わるならもっと説教的にやりたいと、意欲を持ってくれたこともあるので、リサイクルをした後は、こういった形で皆さんの役に立つと言うことを、もっと発信する必要があると考えています。

その他、食品ロス削減の取組として、消費期限内に食べきれない食品について、大学内に持ち寄って、必要とする学生に届けるイベントも計画しています。

また、今年の6月に学生たちで集まって、海岸清掃を行うイベントを企画し、学生の皆で仕事を決め、ごみを回収してくれる先を探すのも学生だけで取り組んだが、市役所に電話したところ、夏の間しか海ごみは回収しないという答えであり、さらに県にも電話をしたところ、市役所に聞いてということで、たらい回しになった経験があります。ごみを減らしましょうという目標があるのはいいことですが、実際に減らそうと努力してもあまり寄り添ってもらえないような気がしていますので、もう少しボランティアをしている人への支援があれば、皆さん途中で折れることなく頑張れると思います。

【事務局】

いただいたご意見を参考にしつつ、今後の県の普及啓発施策等にこういった形で活かしていけるか、研究していきたいと思います。

市役所と県の間でたらい回しがあったというところで、我々も反省すべき点だと思っています。せっかく活動いただいているところが、滞りが起きることがないように、市町村とも意見交換、連携を図りながら、進めたいと考えます。

【部会長】

ごみの話で、エコみらいとくしまとつながりも持たれているようで、企画も援助もしてもらえるかもしれない。

最後になりますが、角谷委員、お願いします。

【角谷委員】

徳島市では、ごみ処理は環境政策課が担当し、私の所属する環境保全課は公害対策や啓発事業などを担当しています。

そこで、2点お伝えしたいことがございます。

1点目は、岡部委員も言われていましたが、リサイクル率について、県30%という目標値が、コロナの前の計画を踏まえていると思うので、国の26%に合わせてもいいのでは、と思いました。

2点目ですが、私も出前環境教室という啓発事業をしており、その際は実施回数や参加人数などの数字を把握するようにしています。

もちろん、数値ではなく、中身（どれだけ伝わったか）が大切なのですが、こちらの計画でも、単に「努めます」という表現ではなく、何回実施したか、何人聞いてくれたか等、そういった数字を把握されていて、計画に入れられるなら、入れていただければと感じました。

【事務局】

目標に関して、26%でもいいのではということで、県としては前回の目標が30%だったということで、引き続きその水準を下げることなく、そこに向かい取り組んでいきたいと考えているので、ご理解をお願いします。

また、出前環境教室で、回数や受講者数等、数値目標のお話をいただきましたが、全体の中でどのような対応ができるかというところで、検討させていただきたいと思います。

【部会長】

他に何かございますか。

今日は、色々ご意見をいただきました。これらの意見を基にして、事務強で整理し、市町村等関係する機関の意見聴取、並びにパブリックコメント等、所用の手続きを行った上で、次回の審議会で「第6期徳島県廃棄物処理計画」に反映させた形で、提出をお願いします。

そのほかには、何かございませんか。

特に無いようですので、事務局よりスジェジュール等についての説明をお願いします。

【事務局】

(スケジュールについて説明)

【部会長】

ありがとうございました。

これもちまして本日の審議を終了いたします。

議事の進行につきまして、御協力いただき、ありがとうございました
進行を、事務局にお返しいたします。

【事務局】

それでは、以上を持ちまして、閉会いたします。

本日は、ありがとうございました。